

13. 都市在住の児童を有する家庭婦人の健康実態に関する研究報告

植田理彦(財)日本健康開発財団
総合健診センター所長

1. 研究目的

本調査は、大都市在住で、年齢3才～5才の健康な児童を有する家庭婦人と、心身障害児を有する家庭婦人との健康状態を比較研究し、家庭婦人の健康が子供に与える影響の基礎的研究をすることを目的とした。

2. 研究対象

研究の対象を二つのグループにわけた。

(A) 健康な児童を有する家庭婦人群

昭和54年度に(財)日本開発財団総合健診センターで健診を受けた児童を有する家庭婦人。

(B) 心身障害児を有する家庭婦人群

目黒区平塚幼稚園、目黒区立油面小学校若竹学級に心身障害児を通わせている家庭婦人。

3. 研究方法

- (1) 当健診センターで健診した家庭婦人の中から3才～5才程度の児童を有する家庭婦人へ、郵送調査によるアンケートを行なった。
- (2) 心身障害児を有する家庭婦人に上述のアンケート調査を行ない、回答を寄せた人について健診を実施した。
- (3) アンケートによる社会的属性(世帯、年収、生活環境など)、嗜好(酒、タバコ)、育児方針、三親等以内の家族歴、既往症、現症、妊娠中の栄養状態や合併症、及び健診による家庭婦人の総合的な健康状態を比較した。

4. 研究結果

(1) アンケート調査による比較研究

アンケートに回答を寄せてくれたものは、(A)、(B)のグループ共16名であった。

顕著な相違点は以下のとおりである。

- (ア) 生活環境的には、「近所に同じ年代の子供達の遊ぶグループがありますか」という点については、A群（健康な児童を有する家庭婦人）は「ある」に81.3%、B群（心身障害児を有する家庭婦人）は50%で、31.3ポイントの差がある。
- (イ) 経済的に平均世帯年収を比較すると、A群は490万円、B群は350万円で140万円の開きが見られる。
- (ウ) 結婚年齢では、A群の平均結婚年齢は23才であるのに比較して、B群は25才でありかつまた、28才以上の晩婚者がかなりいる。
- (エ) 「主人と子供の育て方についてよく話す方か」という質問に対して、A群は、「よく話す方である」、あるいは、「まあまあ話す方である」という回答が81.2%あるが、B群は62.5%で、「ほとんど話さない」が37.5%もある。
- (オ) 三親等以内の家族歴については、B群は心臓疾患、精神異常など、A群より高い割合を示している。

(2) 健診による比較

健康診断には身体計測、血圧測定、心電図検査、血液並びにその生化学的検査など33項目について行ない、A群とB群を比較した。表-1に示すように、何れも正常範囲内の差であり、特に、有意の差は認められなかった。しかし、血液生化学的検査データは、正常値範囲内ではあるが、ビリルビン、GOT、アルカリフォスファターゼ、以外は、すべてB群が高値であった。

A群は平均年齢33才であり、B群の平均年齢は37才である。この年齢の狭い範囲内の各検査値の正常値（平均値）と比較した場合B群との差が認められるかどうか疑問であるが、いちおう、この点については、さらに検討する必要がある。

問診の比較については、図-4に示す。

「眼が疲れやすい」「首すじや肩、背中がよくこる」がB群に多く訴えられている。「足が疲れる」「どろきがする」などと同じく、心障者の看護による影響と判断できる。

「めまい、立ちくらみがよくある」と「皮フが弱い」が、A群にあってB群にないのは特に要因は考えられない。「めまい、立ちくらみ」は血圧をみるとA群がB群に比べて拡張期、収縮期圧とも低い傾向にあるので、そのためかもしれない。

以上、アンケートによる調査と、総合健診により、A群とB群を比較した結果を報告した。

図-1 結婚年齢

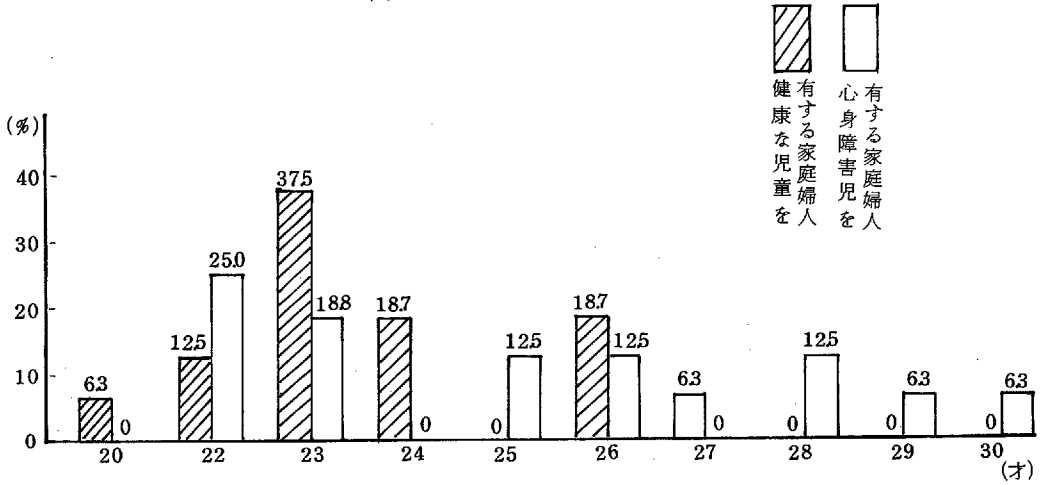


図-2 三親等以内の家族歴

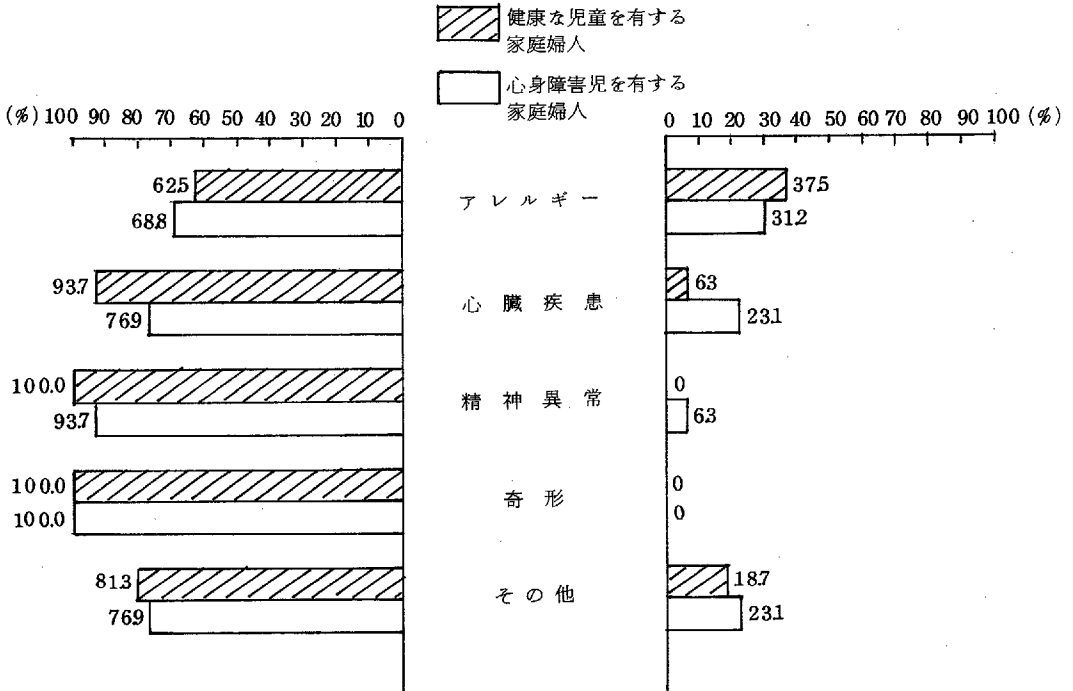
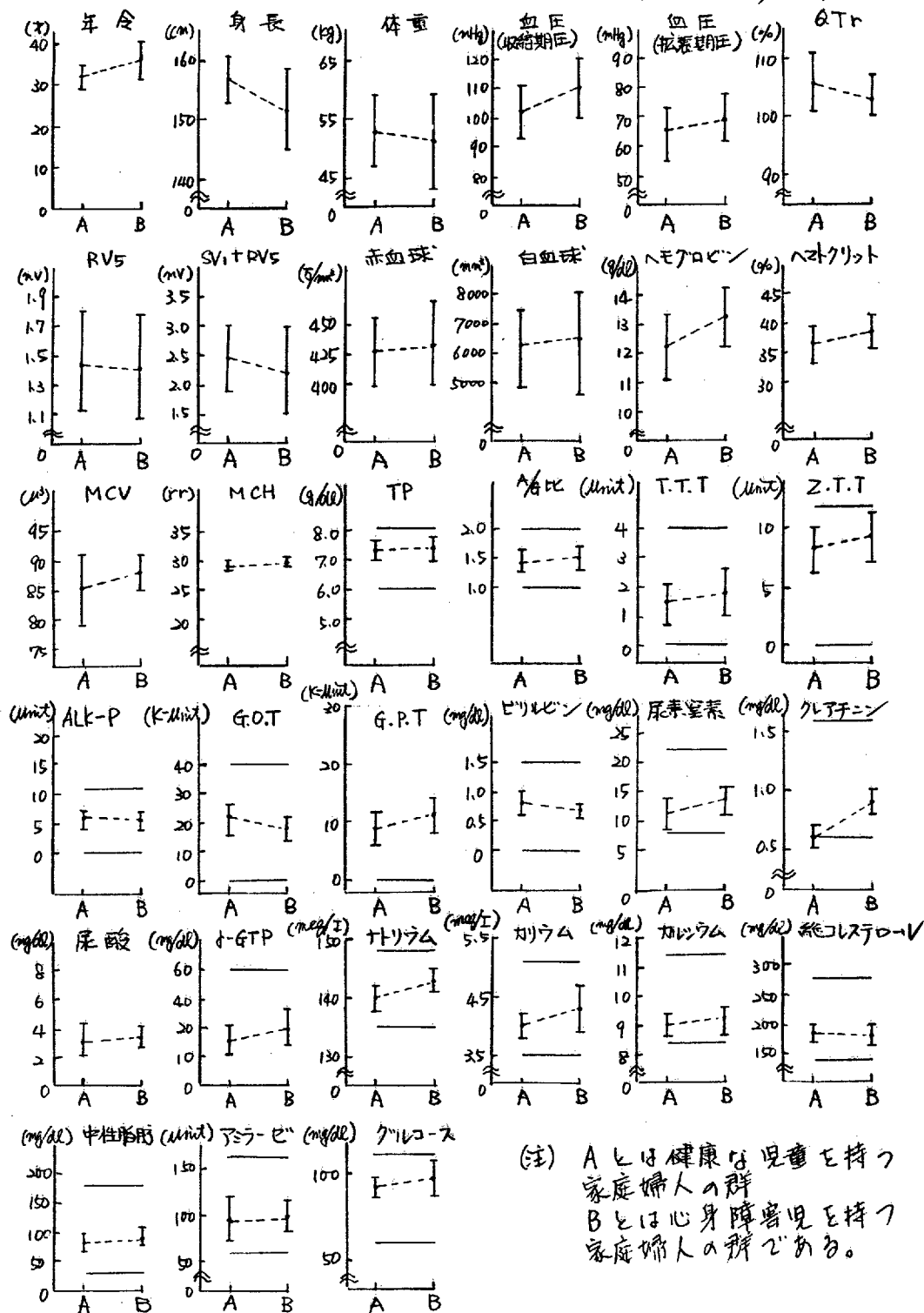


表-1 健診結果比較表

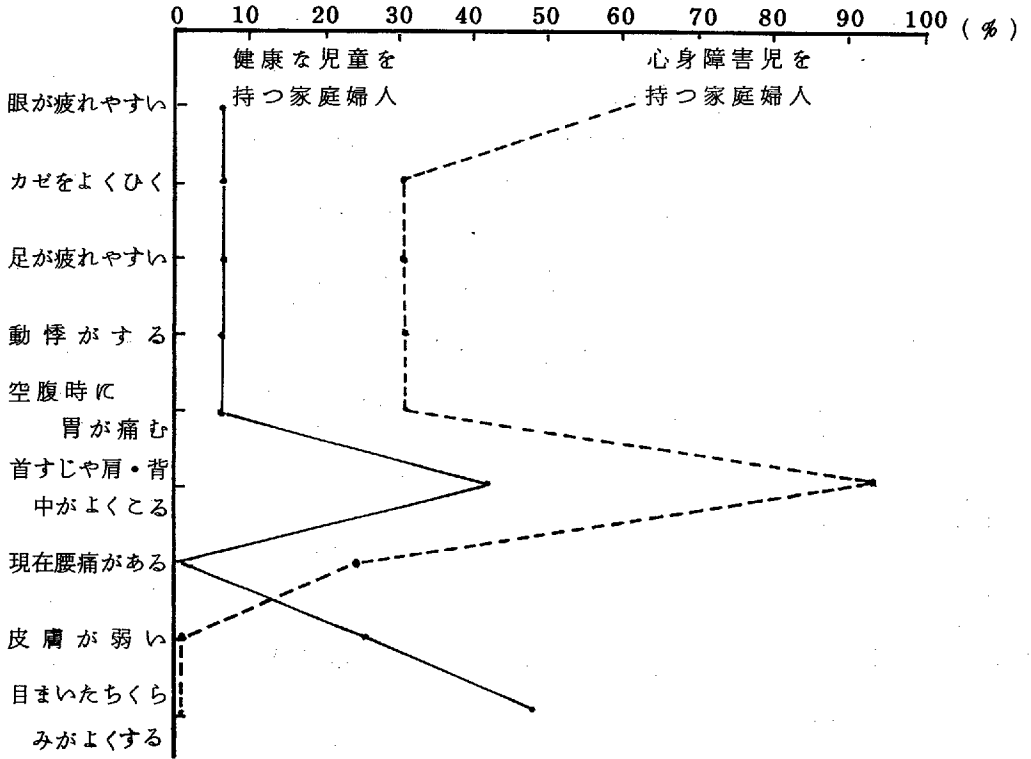
| 健診項目 | 単位 | 健康な児童を持つ家庭婦人 | 心身障害児を持つ家庭婦人 |
|-------------------------------------|-------------------|--------------|--------------|
| 年令 | 才 | 33 ± 3 | 37 ± 4 |
| 身長 | cm | 157 ± 4 | 152 ± 7 |
| 体重 | kg | 53 ± 6 | 51 ± 8 |
| 血圧(収縮期圧) | mHg | 102 ± 9 | 110 ± 10 |
| 血圧(拡張期圧) | mHg | 65 ± 8 | 70 ± 8 |
| Q T r | % | 106 ± 4 | 103 ± 3 |
| R V s | mV | 1.46 ± 0.34 | 1.43 ± 0.34 |
| S V ₁ + R V ₅ | mV | 2.42 ± 0.62 | 2.22 ± 0.78 |
| 赤血球 | 万/mm ³ | 428 ± 35 | 434 ± 35 |
| 白血球 | mm ³ | 6240 ± 1322 | 6385 ± 1709 |
| ヘモグロビン | g/dl | 12.2 ± 1.1 | 13.2 ± 1.0 |
| ヘマトクリフト | % | 36.5 ± 3.0 | 38.6 ± 3.0 |
| M C V | μ ³ | 85 ± 6 | 88 ± 3 |
| M C H | g/g | 28 ± 2 | 30 ± 1 |
| T. P | g/dl | 7.3 ± 0.3 | 7.3 ± 0.3 |
| A/G 比 | | 1.41 ± 0.2 | 1.50 ± 0.2 |
| T. T. T | Unit | 1.4 ± 0.7 | 1.8 ± 0.8 |
| Z. T. T | " | 7.9 ± 2.1 | 9.4 ± 2.2 |
| A L K - P | " | 5.7 ± 1.6 | 5.5 ± 1.6 |
| G O T | K-Unit | 22 ± 4 | 18 ± 4 |
| G P T | " | 9 ± 3 | 11 ± 3 |
| ビリルビン | mg/dl | 0.8 ± 0.2 | 0.7 ± 0.1 |
| 尿素窒素 | " | 11.2 ± 2.4 | 13.3 ± 2.5 |
| クレアチニン | " | 0.6 ± 0.1 | 0.9 ± 0.1 |
| 尿酸 | " | 3.3 ± 0.9 | 3.5 ± 0.6 |
| - G T P | " | 15.6 ± 4.8 | 19.5 ± 15.6 |
| ナトリウム | meq/dl | 140 ± 2 | 143 ± 2 |
| カリウム | " | 4.0 ± 0.2 | 4.3 ± 0.4 |
| カルシウム | mg/dl | 9.0 ± 0.4 | 9.2 ± 0.5 |
| 総コレステロール | " | 173 ± 26 | 175 ± 32 |
| 中性脂肪 | " | 76 ± 16 | 89 ± 29 |
| アミラーゼ | Unit | 90 ± 31 | 98 ± 21 |
| グルコース | mg/dl | 91 ± 4 | 97 ± 11 |

図-3 健診結果比較グラフ



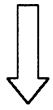
(注) Aとは健康な児童を持つ家庭婦人の群
Bとは心身障害児を持つ家庭婦人の群である。

図-4 問診表による比較





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1. 研究目的

本調査は、大都市在住で、年齢3才～5才の健康な児童を有する家庭婦人と、心身障害児を有する家庭婦人との健康状態を比較研究し、家庭婦人の健康が子供に与える影響の基礎的研究をすることを目的とした。